

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 介護度が重くなっても、施設の名にも入っている「まごころ」を込めた対応を行い、住み慣れた地域の中で笑顔あふれる毎日を送れるよう、職員全員で理念を共有し、サービスにつなげる努力を行っている。 | 理念は玄関に掲示されており、開設にあたり全職員の理念案を持ち寄り事業所にふさわしいものとなるよう話し合い作成された。管理者は毎月の職員会議にて“笑顔があふれるサービス”がされているかを振り返る機会を設け、職員の意識づけやサービス実践に繋がるよう努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍ではあるが、入居者と一緒に地域に散歩に出かけ、出会った地元の方々と挨拶を交わしている。 今年度はコロナウィルス感染対策の為、地域との交流は自粛している。 | コロナ禍において地域行事には参加できていない現状がある。日常の散歩では近隣住民との挨拶を交わし、また、地域回覧に掲載してもらう広報誌を利用者と一緒に住民宅へ届けるなど、日常生活の中での関わりに努めている。今後は自治会の情報を得ながら地域の一員として活動できるように努めていく予定である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 作成した広報を毎月地域に回覧していただき、施設の様子や取り組みをお伝えしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナウィルス感染対策の為、運営推進会議は1回のみで開催であった。それ以外は市にも確認し、書面にて報告させていただいた。構成員の方々とは電話等で連絡を取り合ったり、書類と一緒に広報をお渡しし、活動についての理解を深めてもらっている。 | 地域住民代表、市の担当者、家族代表、利用者代表、職員等が構成委員となり定期的に開催している。現在、新型コロナウイルス感染防止のため書面での取り組みであり、利用者の生活の様子、事故、苦情等を報告している。委員からの意見・要望を報告書送付時に要請しているが返答を得られていない状況が続いている。今後は初回のような双方向性のある会議になるよう検討する予定である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 開設したばかりの為、不明な点も多く、運営に関する事や、疑問点などその都度行政の窓口にて市の担当者と相談している。 | 市の担当者に運営に関する相談を随時行っている。また、運営推進会議報告にて事業所の活動状況を報告している。今後、胎内市連絡協議会などでの関わり等を通じて、協力関係の構築に努めていく予定である。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催している。全職員でオンライン研修を行うと共にスピーチロックのアンケートや意識調査を行うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | オンライン研修にて心理・身体拘束防止についての学習を行っている。全職員が身体拘束委員であり定期的に会議を開催している。また、スピーチロックアンケート、意識調査を実施し、職員会議で身体拘束防止についての話し合いを行ない意識づけやケアに取り組んでいる。 | オンラインでの研修や意識調査を実施し、身体拘束防止委員会等を開催するなど、身体拘束防止の意識向上を図っているが、今後も一層の取り組み継続が必要と思われる。そのため現在実施しているスピーチロックアンケート、意識調査、ケアの振り返り等の結果内容を活用した取り組み（現状把握→事業所が目指しているケアの到達状況の確認→目標達成に向け、身体拘束マニュアルを基に事例検討や研修を計画的に実施）を行い、職員自らが拘束をしないケアを考え、実践できるような組織作りが期待される。 |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | オンライン研修や、職員会議等で定期的に話し合い、虐待についての理解を深めると共に、苦情内容の周知や対応・改善なども話し合っている。 | 虐待防止法関連法等についてはオンライン研修にて学習している。「養護施設従事者の高齢者虐待の考え方」マニュアルが整備されている。毎月の職員会議にてスピーチロックなどの話し合いをすることで虐待防止への意識づけを行い、必要時に管理者が直接指導している。職員面談を年2回行い、職員の要望、思いを聞くことでストレス軽減を図っている。今後は事例検討での学習を行い一層の意識づけ、虐待防止に取り組む予定である。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度を活用されておられる入所者がおり、身近な制度として捉えている。オンライン研修等、職員が学ぶ機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際には、ご本人様・ご家族様が納得して理解していただけるよう、重要事項説明書を用いながら十分に説明している。また、改定などがあった場合は書面にて了解を得るようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 昨年開設した施設である事と、コロナ禍によりまだその機会を設けることが出来ていないが、日頃から家族との関わりの中で、話し易い環境作りを心掛けている。 | 家族が日用物品の依頼や届け物で来所の折に利用者の日常生活の様子を伝えるとともに、家族状況を伺うなど積極的に関わりを行い、要望、意見を話しやすくなるよう努めている。利用者には個別に話しかけ、困りごとなど聞き取りを行っている。出された要望、意見はパソコン内に入力し、申し送りを行うなど職員間の情報共有を図っている。出された要望は運営に反映するよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 一日に数回はユニットへ行き、職員とコミュニケーションを図っている。月に1回の職員会議においては意見や提案を聞き、否定せず反映できるようにしている。 | 管理者は、毎月の職員会議や、年2回の職員面談にて職員の意向の把握を行い、また、日々の業務において職員に声掛けや関わりの機会を持ち、職員の意見・提案を聞くよう努めている。出された意見・提案は職員間で話し合いを行い、運営に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者は、年に2回職員面談を行い、職員の考えや気持ちを聞く機会を設けている。法人としても、1年に1回スキルアップに対するアンケートを取り、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 今年度は、コロナウイルス感染対策もあり、他人との接触を避ける為オンライン研修を行っているが、法人としては毎年参加が必要な研修に行ける機会を確保している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市の研修に参加し、他の同業の職員との交流を図っている。また、情報の収集も行っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 常に声掛けを行い、本人の気持ちを傾聴し、他の入所者とも話し易い雰囲気作りを行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時に十分な対応を行い、入居後もご本人の様子など定期的に電話等で伝えている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前面談により、本人、家族の要望をしっかりと確認し、サービスに反映させている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の出来る事を見つけながら、本人の自立支援を心掛けている。 | | |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍ではあるが、定期的に差し入れなどを家族に頼んで、来所していただいた際に、窓越しでの面会をしてもらっている。また、美容室・受診の対応をお願いしている方もいる。毎月発行している広報では、ふんだんに写真を載せ、行事や普段の様子などをお知らせしている。 | 法人の「新型コロナウイルス段階別対応表」に基づき、家族面談は窓越しで行うなど制約される状況が続いている。毎月発行する「広報」は日頃の生活や行事の様子を写真で掲載するなど工夫を行い、差し入れや話し合いのために来所された家族には「タブレット」で利用者の様子を見てもらい、家族との電話の支援を行うなど家族との絆づくりに努めている。また、美容室、受診時の付き添い、定期的に差し入れを家族に依頼するなど共に支える関係づくりに努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナウイルス感染対策の為、面会や外出制限をさせていただいている。併設している特別養護老人ホームでは、毎年地域との交流を図っている為、新型コロナウイルス収束時には、参加をしていく予定である。 | 窓越でのバスハイクを毎月実施しており、胎内観音など近隣の馴染みの場所へ出かけている。また、マスクを着用して時折、併設特養に入所している馴染みの利用者を訪問している。家族希望での墓参り、馴染みの美容室へ外出するなどコロナ禍で活動制限される中で馴染みの関係性の継続に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 難聴の入居者様が孤立している様子等、職員がしっかり自分で判断し、見極めて他の入居者と交流や会話ができるように仲介している。筆談でのコミュニケーションも図る努力をしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じて相談や連絡をし易い環境になるように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人に意向をきちんと確認し、出来る限り希望、意向がケアプランに反映するようにしている。 | 本人の思いや意向は、入所前の資料・家族歴・生活歴を基に機会を捉え聞くようにしたり、日常の関わりの中で声掛けや筆談を行うなどで個々に対応しながらの把握に努めている。また、家族、職員の話し合いで本人本意に検討している。 | |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 今までの生活歴、馴染まれた暮らしに沿ったサービスができるようにご家族様からも情報をいただいている。アルバムや写真などを持ってきていただき、ご本人から昔の思い出などを教えてもらったりしている。 | 入所時のアセスメントシート、生活状況シート、フェイスシートなどから生活歴、生活スタイル、価値観、趣味嗜好等の情報を得ている。また、本人との関わりや家族情報からこれまでの暮らしの情報を得ている。把握した情報はパソコンに入力し職員間で共有を図り、サービスに繋がるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 月1回のユニット会議や、日々の申し送りで把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画のモニタリングは居室担当者が行っており、モニタリング終了後は居室担当者で話し合いをしている。他に主治医に相談したり、ご本人・ご家族様の意見を聞くなどして介護計画を作成している。更新時や状態が変化したときは、現状に見合った介護計画を作成するよう心掛けている。 | 介護計画は、家族、本人の意向を反映するよう居室担当者、計画作成担当者が中心となり作成している。コロナ禍の中、サービス担当者会議は家族との話し合いや確認を行えるよう、時期、場所を工夫して実施しており、現状に即した計画立案に努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 本人の日々の様子や状況を個別の記録や介護支援経過記録に残し、集約した申し送り表を用いて職員間で情報を共有し、ケアの実践を行ったり介護計画の見直しに生かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人とまめに会話したり、家族とは電話で密に連絡を取るなどしてその時々状況や要望などその都度聞きながら、柔軟な支援やサービスが提供出来るように取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新型コロナウイルス感染対策としてボランティアの受け入れを中止したり、外出の制限も行っており、地域資源を生かすことが出来ていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|--------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 併設施設の嘱託委をかかりつけに希望されている方が多いが、変化があった時などは必ず家族に報告している。家族の送迎でかかりつけ医を受診される時は、日常の様子などを伝え、バイタル表や時には状態を書いた手紙を渡し、医師に情報を伝えてもらっている。 | 家族等の付き添いで受診される場合は、必要な情報を記載して渡し医師に伝達している。受診後は、パソコン内や送りノートで職員間で情報を共有している。また、かかりつけ医が嘱託医である利用者は、体調不良時や夜間など、往診により適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | グループホーム内には看護職員がいないが、併設の特養看護師に相談ができる体制を整えている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報提供を行っている。面会制限により、家族からも病状の状況を教えてもらうことができないため、ソーシャルワーカーと密に連絡を取り合い状態の把握に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 新設の為、まだ対象の方はいないが、その時期が来たら対応していきたい。 | 重度化した場合や終末期の在り方について、事業所では本人や家族の意向に沿って話し合う機会を大切に考えている。状況変化に応じ、併設の特養を案内したり、本人と家族の安心と納得を得られるように支援している。 | |
| 34 | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時マニュアルを整備している。協力医も夜間でも往診に来て対応してくれている。 | 想定される急変や事故対応についてのマニュアルがしっかり整備され、緊急時に誰でもが見る事のできる場所に設置されている。吸引器が共用スペースに備えられているが、マニュアルに基づいた勉強会や全職員のAED取扱い法の周知までには至っていない現状である。 | 利用者の急変や事故発生時には、夜間なども、慌てず適切な行動がとれることが求められる。今後は、AED操作研修や応急手当などの具体的な職員参加の研修を、定期的・継続的に行い実践力を身に付けていかれることに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回併設の特養と合同の避難訓練を行っている。また、今年から水害時の訓練も行う予定である。 | 水害時の避難訓練を行い、避難場所までの歩行と輸送を職員と利用者が一緒に確実な避難誘導ができるよう訓練している。備品、備蓄品等も整理し災害への対策を確認している。地域とは、「災害時における相互支援に関する協定書」が結ばれ協力体制が整っている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 研修(今年はオンライン)を行い、接遇についても全体会議や職員面談でも話し合っている。 | 居室への入室時は、本人の了解を得て入室することや、入浴やトイレ内で行うケアの際の配慮など、暮らしの中で利用者のプライバシーが守られるように取り組んでいる。援助が必要な時も一人ひとりを尊重した対応を行うようケア会議の中で話し合わせ、支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の職員との対話で本人が話し易い雰囲気を作るように心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務を優先しないようにその人に合った介助や見守りを行い、一人一人のペースに合わせるようにしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望や意向により、馴染の美容室に行ってもらっている。日常着もタンスから本人の好きな物を選んで着ていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | クックチルを利用しているが、月に数回は献立を考えて提供したり、季節の物を加えるなどしている。どちらにしても、準備や片付けを職員と共に行っている。個々に好き嫌いを聞いて、嫌いな献立の時は代替えの物を提供している。 | 畑の茄子を収穫し、茄子漬・茄子油炒めなどを利用者の意見を取り入れ一緒に調理したり、献立によって準備や片付けを行っている。また、おやつレクを通して食欲を高めたり、個々の力を活かせるよう取り組んでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | クックチルにて栄養バランスは摂れている。食事形態やご飯の量もその人に合わせ提供している。水分も一日の摂取量をきちんと管理している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 在宅でリハビリパンツを使用していた方を布パンツに移行させる努力をしている。ケア会議でも排泄の自立支援について話し合っている。 | 利用者の排泄パターンを把握した中で、必要な声掛けなどの支援を行い、さりげない排泄介助を心掛けている。職員が日々の様子を観察した上で、家族の協力を得ながら、布パンツに移行する事ができた事例もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | リハビリ体操・施設内を散歩するなど身体を動かす機会を設けている。水分量の少ない方には他の飲み物を提供したり、度々ヨーグルトやバナナ・ヤクルトなども提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 職員のシフト体制もあり、人員が手薄な時間帯がある為、入浴日は設定させてもらってはいるが、出来るだけ希望に沿うように柔軟に対応している。 | 利用者の希望に沿うような入浴が行われるように、繰り返しケア会議で話し合わせ、現在は週3回の入浴を基本としている。その他、入浴剤を入れた足浴や洗髪など個別の対応が行われている。拒まれた時も、気持ちを考えながら無理強いせずシャワー浴で支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご自分の居室行きたい時は、本人の意向に沿って対応している。無理強いはいしていない。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が服薬管理を行っている。薬については一目で内容や用法、用量が分かるよう表を作成しており、職員間で情報を共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その方に合った役割を見つけ、家事・掃除などの担当を決め、分担してもらっている。手作業(縫物・パズル・ぬり絵等)やレクリエーション(おやつ作り・ドライブ等)で気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍の為、外出先での対面等は難しいが、近所への散歩や、車でのドライブを行っている。 | 地域の神社へ散歩したり車でのドライブなど個々に声を掛け外出できるよう努めている。定期的な自治会長宅への広報誌届けや郵便局へ行くなど個別の外出支援も行われている。お盆には、家族協力のもとで職員と一緒に墓参りに出かけた利用者もおられる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | コロナ禍の為、使用できる場面は無いが、ご本人の希望、能力に応じて家族同意の下お金を預かり、美容室などでは現金支払いをして頂いている。その他は立替金。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を所持されている方もおられる。その他の方は施設の電話をお貸ししている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じて壁面の装飾を変えたり、大きな日めくりカレンダーを壁に掛け季節や月、日が分かるように工夫している。 | 事業所の玄関は明るく生活感を感じる空間となっている。併設の特養に繋がるユニット間にはソファがあり、利用者がゆったりと景色を眺めくつろげる一角がある。また、利用者は車いす・歩行器・杖を使用しており、安全に移動できるよう環境整備に力を入れている。西日が当たる場所はすだれをつけ空調にも配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 年間を通してテーブルやソファの配置を変えて入居者様が過ごしやすいよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にご本人の使い慣れた物を自由に持ち込んで頂けることを伝えている。ベッドは施設の備え付けであり、全員が使用されている。又、定期的に担当の職員が入居者様と一緒に部屋の整理整頓を行っている。インターネットを利用されている入居者様はおられないが、全室Wi-Fi対応となっている。 | 居室には使い慣れた家具のほか、冷蔵庫などの電化製品を持ち込み好きな時に利用することが可能となっている。掃除道具を利用者の使いやすい長さに調節し、居室担当者と共にやっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 全スペースバリアフリーで対応している。リビングや廊下は広くとっており、安全面に配慮している。 | | |